

9

前計画（札幌新まちづくり計画）の実施状況

I 実施状況の概要

①計画事業費の進捗状況

計画事業費総額3,514億円に対する平成18年度決算ベースによる事業費の進捗率は97.6%となっています。

基本目標ごとの事業費の執行状況一覧

(単位:百万円)

基本目標	計 画	執行状況	進捗率
1 元気な経済が生まれ、安心して働ける街さっぽろ	242,907	242,784	99.9%
2 健やかに暮らせる共生の街さっぽろ	32,699	29,478	90.1%
3 世界に誇れる環境の街さっぽろ	60,987	56,196	92.1%
4 芸術・文化、スポーツを発信する街さっぽろ	10,522	10,716	101.8%
5 ゆたかな心と創造性あふれる人を育む街さっぽろ	13,551	12,647	93.3%
その他の重点事業	15,158	13,506	89.1%
合 計	351,400	342,868	97.6%

注：計画事業のうち、複数の基本目標に該当するものは重複して計上しているため、基本目標とその他の重点事業を合計した数値は合計と一致しない。また、事柄のみ計画化とした事業については実績額に含まない。

②重点戦略課題の進捗状況

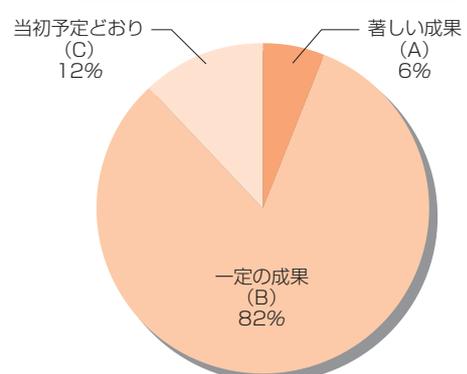
前計画である札幌新まちづくり計画（H16～18）において、5つの基本目標と17の重点戦略課題を設定し計画を推進してきました。

この17の重点戦略課題のうち、15の課題において一定のあるいは著しい成果をあげました。それぞれの重点戦略課題の成果については、次々ページ以降に示しています。

評価分類ごとの重点戦略課題数

基本目標	評価	A	B	C	D
経済			5		
共生			4		
環境		1	2	1	
文化、スポーツ			1	1	
教育			2		

重点戦略課題の進捗状況



※評価の判断基準

- A：計画事業を当初予定どおり実施、あるいは効率的に実施した結果、著しい成果をあげた。
- B：計画事業を当初予定どおり実施、あるいは効率的に実施した結果、一定の成果をあげた。
- C：計画事業をほぼ当初予定どおり実施した。
- D：当初予定の計画事業量を下回った。または、成果が十分に達成できなかった。

③成果指標の状況

前計画では、まちづくりを担う市民・企業・行政などの共通目標を、数値を用いて分かりやすく示すため、60項目の成果指標を試行的に導入しました。

この60項目のうち、計画策定時点よりも上昇を示した成果指標は43項目あり、うち目標値に到達した成果指標は22項目ありました。

成果指標の状況

状況	項目数
計画策定時よりも上昇	43
うち 目標値に到達	22
計画策定時よりも上昇せず	17

目標値に到達しなかった要因としては、成果指標は行政の活動のみならず、さまざまな要因からの影響を受けながら数値として現れてくるものが多いことや、目標達成への取り組みを促すことを目的として、努力目標的な意味合いも込めて高い目標値を設定しているものがあることなどが挙げられます。

それぞれの成果指標の結果については、「Ⅲ 成果指標の状況」に示しています。

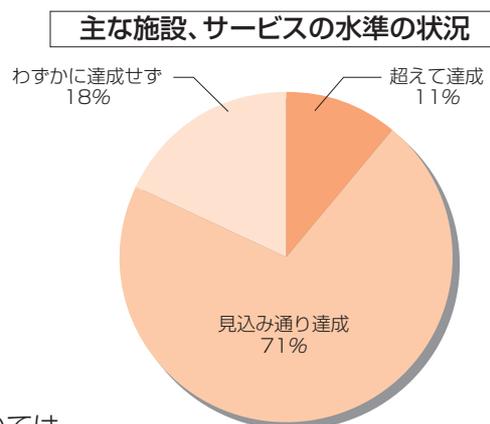
④主な施設、サービス水準の状況

前計画では、計画事業量に対応した主な施設やサービス水準の目標として、計画終了時点での「主な施設、サービス水準」を28項目定めました。

この28項目のうち、目標を達成した項目は23項目あり、うち目標を超えて達成した項目は3項目ありました。

主な施設、サービス水準の状況

状況	項目数
目標を達成	23
うち 目標を超えて達成	3
目標をわずかに達成せず	5



それぞれの主な施設、サービス水準の状況については、「Ⅳ 主な施設、サービス水準の状況」に示しています。

II 重点戦略課題別実施状況

基本目標1 元気な経済が生まれ、安心して働ける街さっぽろ

○重点戦略課題1 中小企業や創業に挑戦する市民へのきめ細やかな支援

【評価】 ★★★ B

施策の基本方針

札幌のまち全体を元気にするため、札幌経済を支える中小企業や新しい事業を起こそうと挑戦する市民、NPOに対し、「札幌元気基金」として500億円規模の資金の枠組みづくりを進め、ニーズに応じた効果的な資金面での支援を強化するとともに、専門家によるアドバイザー制度、人材育成や情報提供の充実など、実効性の高いきめ細やかな支援を行います。

施策別の主な取組状況と成果

【施策1 資金面での支援の充実】

担保・保証人がなく厳しい経営環境に置かれた小規模事業者向けの融資制度である札幌元気基金事業を新たに創設し、平成16年度から3年間で583億円の利用がありました。

【施策2 人材育成、情報提供などのきめ細やかな支援】

販路拡大やITの活用など広範囲の経営アドバイスを行う中小企業アドバイザー制度を創設し、中小企業に対するきめ細やかな支援を行いました。

札幌市東京事務所内に開設したビジネスラウンジを拠点として、人や企業の交流促進、販路拡大への支援などを行い、首都圏企業のネットワークが拡大しています。

【施策3 起業や新分野進出に関する支援】

創業を目指す個人や企業の事業展開を促すベンチャー支援事業により、平成16年度から3年間で17社・個人を支援しました。また、ベンチャー企業は一般に研究開発に時間を要するため、資金確保の手段として有効となる投資ファンドを設立し、資金調達の面で企業の成長を後押しするしくみができました。

重点戦略課題における今後の展開（課題）

中小企業や創業に挑戦する市民への支援について、資金面では札幌元気基金事業に対するニーズが大きかったことから、平成19年度以降、既存の融資制度に札幌元気基金の無担保・無保証といった優れたしくみを取り入れていきます。また、ベンチャー企業への支援については、起業家に対する支援終了後のフォローアップを進めていく必要があると考えています。

基本目標1 元気な経済が生まれ、安心して働ける街さっぽろ

○重点戦略課題2 安心して働ける環境づくり

【評価】 ★★★ B

施策の基本方針

建設業などの構造不況業種について総合的な支援策を実施するとともに、特に再就職を目指す女性、中高年、若年や障がいのある人などの方々就労するための支援や、労働相談に対する支援を、国などの関係機関と連携しながら進めていきます。また、環境都市の実現などを目指す中で、新たな働き方や多様な雇用の場の創出を図るなど、雇用の安定に取り組んでいきます。

施策別の主な取組状況と成果

【施策1 積極的な就労支援と労働相談に対する支援】

就業サポートセンター、母子家庭等就業支援センターなどにおいて、中高年齢者や女性に対するきめ細やかな就業支援や、障がいのある方などに対する就業支援を積極的に行ったことで、就職者数の増加などの成果が得られました。また、労働者に対する支援としては、労働問題を解決するため、セミナーを開催したほか小冊子を作成し啓発を行いました。

【施策2 多様な雇用機会の創出】

コールセンターなどの雇用創出効果の高い企業を積極的に誘致したことで、16社の新たな立地と3,100人の雇用が創出され、地域経済の活性化に大いに資することができました。また、若者の就業を積極的に支援するため、若年層就業体験支援事業を実施した結果、就職者数50人を超えるなどの成果を得ることができました。

【施策3 建設業等構造不況業種対策】

公共事業の縮減などで厳しい状況にある建設業に対し、コミュニティ型建設業創出事業や中小建設業等経営資源活用型モデル事業などを実施し、新たな事業分野の創出や新分野進出などの支援を行ったことで、企業の自発的な経営体質強化に取り組む機会を提供することができました。

重点戦略課題における今後の展開（課題）

安心して働ける環境づくりを推進するためには、経済を活性化し、企業が求める人材を育成していくとともに、本人の能力・適性・希望などに適合しない状態での就職（雇用のミスマッチ）を解消する必要があります。

そのためには、積極的な企業誘致と人材育成支援、きめ細やかな就業支援、若者が抱える課題を踏まえた支援、建設業の構造転換につながる支援の実施など、さまざまな分野の事業を、今後も展開していく必要があります。

基本目標1 元気な経済が生まれ、安心して働ける街さっぽろ

○重点戦略課題3 協働による観光振興とコンベンション事業の推進

【評価】 ★★★ B

施策の基本方針

世界の集客交流都市さっぽろの実現に向けて、札幌の基幹産業の一つである観光やコンベンションの一層の振興に努めていきます。道内各市町村との連携や市民・企業との協働により、まち全体で誘致・PRやホスピタリティあふれるおもてなしを進めるとともに、芸術や地域文化などのハード・ソフトの資産を集客交流資源として積極的に活用しながら、札幌独自の魅力づくり、情報発信を進め、将来目標として来客2,000万人を目指します。

施策別の主な取組状況と成果

【施策1 集客交流都市としての魅力の発信】

平成18年度の来札観光客は1,410万人と過去最高となりました。また、海外からの来客は東アジアを中心に、平成17年度で目標40万人を大きく上回る49万人を達成。平成18年度も55.9万人と続伸しました。

新たな観光魅力の創造を目指す取り組みによって、平成18年度のエレ沼公園の入場者数が83万人と過去最高を2年連続で更新し、文化芸術を切り口とした観光スポットとして定着しました。また、さっぽろスイーツが、複数の大手旅行代理店のパンフレットで頻繁に取り上げられPRの成果が出ています。

【施策2 ホスピタリティ向上の推進】

集客交流・シティPRキャンペーン（おもてなしプロジェクト）やホスピタリティ育成支援事業などを行った結果、来客の満足度は80%以上の高い水準を維持しています。また、札幌市観光ボランティアに対する研修体験参加者数も順調に増加し、目標数を達成しました。一方、市民のおもてなし意識のさらなる醸成を図るとともに、実際の参加につなげていくことが課題となっています。

【施策3 コンベンション誘致・支援の推進】

集客交流・シティPRキャンペーン（コンベンションプロジェクト）において、コンベンションの誘致・支援事業などを行った結果、コンベンション誘致件数は順調に増加しています。

【施策4 住んで快適、訪ねて楽しいまちづくりの推進】

雪まつり将来構想の策定と実践、藻岩山魅力アップ構想の策定、定山溪温泉活性化アクションプランの実現支援など前進していますが、策定した計画や構想の着実な実施が必要です。また、各種のまつりや観光施設など既存資源の魅力向上、新たな観光資源の開発、札幌の魅力づくりと発信が必要となっています。

【施策5 道内各市町村と連携した魅力の発掘・アピール】

フードランド北海道や丘珠空港整備と空港周辺のまちづくりなどの事業を着実に進めることができました。また、広域圏組合との共同PRや小樽市、函館市、西胆振地域との連携など、道内各市町村や官民の関係機関との広域的連携によるPR活動を着実に進めることができました。

重点戦略課題における今後の展開（課題）

さらなるにぎわいの創出に向けて、観光魅力づくりの強化や、きめ細かな情報発信を行っていく必要があります。来客の受入強化という観点では、おもてなし意識の醸成に加え、適切な情報提供など、観光客の利便性の向上を図るとともに、急激に増加している外国人観光客に対する受入対応の充実も必要です。

また、他都市との誘致競争が激化する中、コンベンションの誘致を推進していくために、よりきめ細かな誘致活動を行っていく必要があります。さらに、より一層道内各市町村や官民の関係機関との広域的連携を進め、札幌の魅力と北海道全体の魅力の相乗効果が生まれる事業展開を図る必要があります。

基本目標 1 元気な経済が生まれ、安心して働ける街さっぽろ

○重点戦略課題4 さっぽろの知恵を活かした特色ある産業の振興

【評価】 ★★★ B

施策の基本方針

大学などの研究機関が持つ知の資産と産業とを結び、IT、ライフサイエンス、福祉、環境などの分野で新たな産業をつくっていきます。また、デザイン産業を振興するなど、札幌の都市イメージを活用し、独自の魅力を持つさっぽろブランドを確立・発信していきます。

施策別の主な取組状況と成果

【施策1 大学の知恵とITを活用した新産業の創出と既存産業の高度化】

映像を活用した新たな産業の振興に寄与する、札幌国際短編映画祭を立ち上げ、デジタルコンテンツの分野における担い手となる人材の育成や映像作品（コンテンツ）の集積、プロモーションをより一層進めました。

大学の研究成果を企業が活用できるしくみを構築したほか、産・学・官が連携したバイオディーゼル燃料の研究など、地域の実情に即した創意工夫が生まれました。

IT・バイオの分野において道外企業との連携を進め、販路拡大を積極的に実施しました。

【施策2 札幌の都市イメージを活用したさっぽろブランドの発信】

「デザイン」を経営資源の一つとして認識できる環境を構築するとともに、デザイナーと地元企業との連携により札幌の都市イメージを活用した札幌発の商品開発を行い、保冷ができるお弁当箱など3年間で56製品を、「札幌スタイル商品」として認証しました。

「さっぽろスイーツ」や「さっぽろとれたてっこ」といった札幌の「食」のブランド化を進め、さっぽろ・いちごタルトなど札幌発の食品や食品加工技術、市内の農産品などを広くアピールしました。

重点戦略課題における今後の展開（課題）

優秀な人材や企業の集積を進めるため、市民や企業などの創造性を引き出し都市の活性化を図る「創造都市さっぽろ」構想を推進し、新たな都市ブランドとして国内外に発信していく必要があります。

新産業を育成するため、起業家育成施設などを活用し、大学の優れた研究成果の事業化に向けた総合的な支援を行います。

新たな札幌の都市イメージとして定着しつつある「札幌スイーツ」について、観光やイベントとも連携するなど、さらに国内外に発信していきます。

基本目標 1 元気な経済が生まれ、安心して働ける街さっぽろ

○重点戦略課題5 アジアを中心とした産業ネットワークの拡大

【評価】 ★★★ B

施策の基本方針

成長著しいアジアなどとの経済交流を促進するため、国際都市としての札幌の魅力づくり・情報発信を強化し、市内企業のビジネスチャンスの拡大や技術の高度化を図るとともに、観光客などの誘致活動も積極的に進めていきます。

施策別の主な取組状況と成果

【施策1 経済交流の促進】

東アジアを対象に、物産と観光展などの事業を実施したことで、食品関連産業における韓国などの販路先開拓のほか、中国についても経済交流が活発に行われるようになりました。また、本市に在住する外国籍市民に対し、外国語公式ページや生活情報ホームページの開設、防災訓練や防災講座の実施により、外国人がさらに暮らしやすい環境を整備し、課題を把握することができました。

【施策2 集客交流の促進】

東アジアを対象にした観光促進（プロモーション）などの事業を実施したことで、国際会議などのコンベンションの開催件数が増加したとともに、外国人宿泊者数が、目標値を1年前倒して上回る成果を得ることができました。また、日中韓の3都市での多文化共生をテーマにした事業を通じて、札幌市の魅力の発信や市民のホスピタリティの育成に役立つことができました。

重点戦略課題における今後の展開（課題）

これまでの東アジアへの事業を継続するとともに、中国については、本市北京駐在員事務所を事業の中核に据えて、流通・卸売事業者や建設事業者のコスト削減を目的とした、部材・製品の調達支援や情報関連産業の委託先発掘支援、食品産業の販路先発掘支援など広範囲な産業分野におけるビジネスネットワークの構築に向けた取り組みが必要です。

また、モノやカネの交流のほか、ヒトの流れを促進する施策にも重点を置く必要があることから、外国籍市民の受入環境の整備や都市としての新たな魅力づくりなども併せて、取り組んでいく必要があります。

基本目標2 健やかに暮らせる共生の街さっぽろ

○重点戦略課題1 魅力あふれる地域づくりの推進

【評価】 ★★★ B

施策の基本方針

市民の主体的なまちづくり活動をさまざまな側面から支援するとともに、地域住民のふれあい、活動団体間の情報の共有・交流やネットワーク化などを通じて、協働による地域のまちづくり活動を促進し、区や地域の特性を活かした魅力的で活力あふれる市民自治によるまちづくりを進めます。

施策別の主な取組状況と成果

【施策1 市民の主体的なまちづくり活動の支援】

「児童会館の子ども運営委員会」や「専門家を派遣した地域の勉強会やワークショップの開催」など、市民がまちづくり活動へ参加するための機会を提供することにより、市民のまちづくり活動への関心が高まっており、市民が主体的に活動する市民自治の精神が根付きつつあります。

【施策2 地域住民のふれあい、活動団体間の情報共有・交流やネットワーク化の促進】

まちづくりセンターを、地域の人が気軽に集い、情報の共有、交流やネットワークを形成する拠点として機能強化し、また、地域の特性に応じて地域共通の課題を話し合う「まちづくり協議会」の形成を支援することにより、さまざまなネットワークが生まれ、市民の主体的なまちづくり活動が増えているとともに、地域課題の解決に向けた活動が展開されています。

【施策3 区や地域の特性を活かした市民自治によるまちづくりの推進】

「苗穂駅周辺のまちづくり事業」「菊水上町地区住環境整備事業」「地区センター建設事業」など、これまでは行政が担っていた公共事業においても、その計画策定段階から地域の意見を反映する取り組みが浸透しています。

そのほか、区が地域の個性を生かして企画実施する事業においても、市民と協働での実施が定着しています。

重点戦略課題における今後の展開（課題）

まちづくりにおける地域のネットワークが進み、さまざまなまちづくり活動が生まれている一方、地域では、町内会加入率の低下や役員の高齢化、地域ニーズの多様化、地域課題の複雑・高度化などの課題を抱えています。このような地域課題の解決に向けて、これまでの地域の主体的なまちづくり活動を支援していくとともに、新たな担い手の発掘・育成により一層力を入れる必要があります。

基本目標2 健やかに暮らせる共生の街さっぽろ

○重点戦略課題2 少子化対策の推進

【評価】 ★★★ B

施策の基本方針

さまざまな市民の知恵や経験を活かして、地域での子育て支援体制を充実し、子どもが心身共に健やかに生まれ育つための環境づくりを推進するとともに、子育てと仕事などの両立を支援する取り組みを進めます。

施策別の主な取組状況と成果

【施策1 地域での子育て支援体制の充実】

地域主体の子育てサロンの立ち上げ支援など、子育て家庭を支える市民意識を醸成するとともにそのしくみづくりを行い、子育て家庭が気軽に交流できる場が、市内全域で開催されるようになりました。

保育・子育て支援センターや児童家庭支援センターの設置を進め、育児不安などの相談や、医療機関からの情報提供などにより、育児不安の解消や児童虐待の早期予防に効果を上げています。

【施策2 子どもが心身共に健やかに生まれ育つための環境づくり】

特定不妊治療費や乳幼児医療費の助成制度の充実を行い、子育てへの経済的負担並びに精神的負担の軽減が図られました。

学校と連携した思春期ヘルスケア事業や医療機関・保健センターによる相談事業の実施により、「命の大切さ」、「健康」について理解が深まり、正しい知識の普及啓発が図られました。

児童会館・ミニ児童会館の整備を進め、放課後の子どもが安全・安心に過ごすことのできる場が広がりました。

【施策3 子育てと仕事などの両立支援の推進】

保育所の定員を3年間で1,535人増やしたことや、延長保育・一時保育などの各種保育サービスの実施保育園の拡充を図るとともに、児童会館やミニ児童会館の整備を行ったことにより、子育てしながら働きやすい環境づくりを進めました。

しかしながら、当初の予想を上回る保育需要の増大により、成果指標の一つである保育所待機児童の解消には至りませんでした。

重点戦略課題における今後の展開（課題）

少子化が進行する中、子育て家庭の心理的・経済的負担の軽減、保育サービスの充実などこれまでの施策をより一層進めることが必要であるとともに、子育て家庭に対するきめ細かな支援が求められています。

子育てを社会全体で支える環境づくりを進めるために、地域における子育て支援の取組がさらに充実する施策や、子育てしながら働きやすい職場づくりに取り組む企業を評価し、応援するしくみを検討する必要があります。

基本目標2 健やかに暮らせる共生の街さっぽろ

○重点戦略課題3 地域での高齢者・障がい者の自立支援の促進

【評価】 ★★★ B

施策の基本方針

高齢者や障がいのある人が地域で自立した生活を送れるように、まちのバリアフリー化など安心・安全のための公共的施設の整備を進めるとともに、今後はさらに心のバリアフリーが広がるよう努め、多様な社会参加や地域生活の支援の充実を図ります。

施策別の主な取組状況と成果

【施策1 高齢者や障がいのある人の地域生活支援の充実】

高齢者の介護予防や、心身状況、障がいの種別、程度、発達状況に応じた介護・保健福祉サービスの充実をはじめ、高齢者や障がいのある人に配慮した公的賃貸住宅の供給や住まいづくりに関する相談などの実施により、ソフト・ハード両面で高齢者や障がいのある人が地域で自立した生活を可能にするための支援体制の充実が図られつつあります。

【施策2 高齢者や障がいのある人の社会参加の促進】

障がい者への理解促進事業などにより、高齢者や障がいのある人に対する市民理解の促進を図っているほか、ねんりんピックの開催準備やITを活用した障がい者在宅就労支援事業により、高齢者や障がいのある人の社会参加の機会の拡大につながりました。

【施策3 まちのバリアフリー化など安心・安全のための公共的施設の整備】

地下鉄駅エレベーターの設置や視覚障がい者誘導用ブロック整備などの地下鉄駅施設バリアフリー化など、本市が整備する地下鉄駅や公園整備のほか、公共交通事業者が整備するJR駅バリアフリー化の支援など、安心・安全のための公共的施設整備が計画どおり進められ、高齢者や障がいのある人をはじめ、誰もが、安心して、安全で快適に暮らせるまちづくりが進展しています。

重点戦略課題における今後の展開（課題）

本市の高齢化は今後も急速に進展する見込みであり、在宅福祉や医療技術の向上により、在宅で生活する高齢者や重度の障がいのある人も増加していくことが見込まれるため、高齢者や障がいのある人の現状を把握した上で関係機関との連携を図り、今後とも地域での自立した生活を可能にするための総合的な介護・保健福祉サービスの充実を図っていく必要があります。また、各種事業の一層の周知を図るとともに、事業の実施においては、本市の厳しい財政状況を考慮し効率的な運用を図る必要があります。

基本目標2 健やかに暮らせる共生の街さっぽろ

○重点戦略課題4 地域での健康づくりの推進

【評価】 ★★★ B

施策の基本方針

市民一人ひとりが生涯を通じて健康であることを目指し、市民の健康づくりについての意識を高め、主体的な取り組みを支援していくとともに、地域、企業、学校その他関係機関などと連携し、健康づくりを支える環境の充実を図ります。

施策別の主な取組状況と成果

【施策1 一人ひとりの健康づくりの支援】

ホームページを活用した健康情報の提供、自主的な健康づくりを進めるための基盤整備の推進、未成年者喫煙防止対策協議会の設置、食生活指針及びガイドの作成・普及啓発、歯周疾患検診事業の実施及び検診対象者の拡充、高齢者が主体的に取り組む転倒骨折予防テキスト・パンフレットの作成など、市民が自主的に健康づくりを進めるためのツールが徐々に整備されてきており、市民一人ひとりの健康づくりを支援する基盤が整ってきています。

【施策2 地域での健康づくりの促進】

健康づくりの自主活動グループの活性化やネットワーク化、東区パートナーシップヘルスケア事業における地域での健康づくり組織の設立、地域住民などを対象としたレクリエーションプログラムの提供や地域へ出向いての事業実施などにより、自主活動グループが地域組織と連携した健康づくり活動を実施したり、各地区における健康づくりに取り組む機運が高まるなど、健康づくりの重要な要素である、地域での健康づくりが進展しています。

【施策3 健康づくりを支援する社会環境の充実】

市民自ら健康管理を行うために必要な外食料理栄養成分表示の継続実施、児童・生徒が生涯を通じて自らの健康問題を主体的に解決できる能力を育てるための思春期ヘルスケア事業の継続実施、医療機関との連携による性に関する相談事業など、市民の健康づくりを支える活動や環境づくりにより、健康づくりを支援する社会環境の充実が図られてきています。

重点戦略課題における今後の展開（課題）

急速な少子高齢化などにより、健康づくりは今後ますます重要となってきます。市民の健康に関する意識も高まる一方で、適切な情報を取捨選択する能力を身につける必要性や、地域や企業などの健康づくりを支える環境づくりがより重要となっており、他部局との連携による事業の推進や、市民グループ、企業、学校などのさまざまな活動主体との協働や、まちづくり活動との連携・融合を図ることが必要となっています。また、札幌市は積雪寒冷地ということから、冬季における運動不足が顕著であり、冬の寒さや雪を利用したスポーツや屋内での運動など、一年を通じた健康づくりの普及啓発が重要です。

基本目標3 世界に誇れる環境の街さっぽろ

○重点戦略課題1 水とみどりのうるおいと安らぎのある街の実現

【評価】 ★★★ B

施策の基本方針

人間活動による負荷を少なくし、多様な生態系に配慮しながら、良好な水環境の維持・回復を図るとともに、水辺の保全やせせらぎの回復などを通じて、みどりゆたかで清らかな水辺を創出していきます。

また、札幌の大きな魅力となっているゆたかなみどりを30%増やすことを目指して、市民や企業などと共にみどりの保全・育成を進め、まちのみどりのボリュームアップを図ることで、みどりを基調としたうるおいのある美しく風格ある街並みをつくりあげていきます。

施策別の主な取組状況と成果

【施策1 水やみどりを楽しむ心の醸成】

大通公園の花壇の花苗植込への市民参加や、プレイリーダー（公園ガイド）育成講座、水生生物観察会の開催など、身近な水・みどりに親しむ市民活動を支援したことにより、水・みどりの保全・育成を行う市民主体の活動にも、多くの市民の参加の輪が広がるなどの成果が得られました。

【施策2 水辺の保全・創出】

豊平川からの導水管の整備により、サクシュ琴似川の復元や創成川の水量の増加を図るとともに、水再生プラザ（下水処理場）の高度処理化や、きょう雑物（下水中のごみ）流出防止対策などの実施により良質な水質を確保することができました。また、多自然型河川の整備などにより、自然と人がふれあえる、豊かで親しみのある水辺を保全・創出しました。

【施策3 みどりの保全・育成】

特別緑地保全地区や都市環境林の取得により、街から見える山並みや市街地に点在する緑地の保全を図りました。また、公園の管理を行うボランティア制度の確立、森林管理施策研修会の実施や森林保全技術の指導者の派遣実施などにより、公園緑地の保全・育成活動に対する支援制度の活用が進むとともに、活動に参加する市民団体が増加しました。

【施策4 みどりのボリュームアップ】

緑化重点地区内の公園整備や学校・児童会館の緑化、市民との協働による植樹などにより、公園緑地をはじめ、公共施設・民有施設のみどりのボリュームアップに取り組みました。特に、市民活動による花苗の育成・植栽や、身近なみどりの満足感と深く関わりのある樹木のボリュームアップについては大きな成果がありました。

重点戦略課題における今後の展開（課題）

「水・みどり」は、日々の生活に季節感とうるおいを与え、美しく風格ある街並みの形成に寄与するとともに、地球温暖化などの環境問題においても多面的な機能を発揮しているため、この重点戦略課題の重要性はますます高まりつつあります。

今後とも、公園緑地や河川の整備、下水道事業などについて、市民参加を図りながら取り組むとともに、市民参加の輪を広げるため、学校教育や地域活動との連携を積極的に進めて、子どもたちや地域住民の「水・みどり」に対する愛着を醸成していく事業に取り組むことが必要です。

基本目標3 世界に誇れる環境の街さっぽろ

○重点戦略課題2 地球環境問題への対応と循環型社会の構築

【評価】 ★★★ B

施策の基本方針

地球温暖化の防止に向けて、市民・事業者・行政が一体となってCO₂の排出量10%削減を目指します。環境問題の深刻さについて市民の理解を深めると同時に、市民の日常生活の中に環境行動のムーブメントを起こします。さらに、札幌市が率先してエネルギーの有効利用をはじめとする環境行動を推進し、その成果を市民・事業者などへ波及させる取り組みを進めます。

また、大量生産・大量消費・大量廃棄を基調とした「ワンウェイ型」社会から循環型社会への転換を図るため、企業の事業活動や市民の日常生活におけるごみの発生抑制、再利用、リサイクルを推進するとともに、環境に配慮したごみ処理を徹底します。

施策別の主な取組状況と成果

【施策1 環境意識の醸成と行動の喚起】

「エコライフ10万人宣言」（宣言者数127,928人）をはじめとするCO₂排出削減に向けた取り組みに関する普及啓発を中心とした事業を体系的に進め、多くの市民の参加を得ました。また、将来的な環境産業振興に向けて実施した食物リサイクルや農業のモデル事業の成果を今後の検討に役立てていきます。

【施策2 行政の率先行動と市民などへの波及】

行政の率先行動として、庁内EMS（環境マネジメントシステム）の運用徹底や公共施設の延命化、太陽光や地中熱の利用などの新エネルギー導入などを全庁的な取り組みとして進めました。さらに、事業者へのEMS導入や熱供給事業者の「札幌駅前通熱供給導管ピット整備事業」への支援により、市民などへの波及として、目標を超えるEMS導入数の実現や本格的な事業化への進展などの成果がありました。

【施策3 ごみの発生抑制のしくみづくり】

「さっぽろスリムネット」によるごみ減量実践活動の充実や、蛍光管の回収協力店拡大、ごみ減量に関する市民へのPRなどの結果、廃棄ごみ減量の目標を達成しました。さらに、下水汚泥有効活用のための「下水汚泥資源化計画案」の策定や、札幌市一般廃棄物処理基本計画改定について、審議会における市民や事業者等の意見聴取を経て答申を受けるなど、ごみの発生抑制のしくみづくりを着実に進めることができました。

【施策4 環境に配慮したごみ処理体制の確立】

ごみ埋立地への自己搬入ごみの搬入指導強化による受入量の減少、生ごみ堆肥化の実験モデル事業の実施、事業系古紙のリサイクルシステムの確立、「第2次札幌市産業廃棄物処理指導計画」の策定など、環境に配慮した多角的なごみ処理体制の確立を進めることができました。

重点戦略課題における今後の展開（課題）

環境行動の定着に向けた普及啓発をさらに拡充するとともに、CO₂排出削減につながる実効性ある取り組みを市民などへ波及させるため、行政の率先行動、事業者へのEMS導入や省エネ・新エネ導入への支援などを推進する必要があります。

また、循環型社会の構築に向けて、ごみ減量実践活動の充実や実践者の拡大、下水汚泥の利用先の確保・リサイクルコストの削減、生ごみ堆肥化実験モデル事業の成果を踏まえた減量施策の検討、事業系古紙リサイクルの拡充など、より一層のごみ発生抑制に向けたしくみづくりが必要です。

基本目標3 世界に誇れる環境の街さっぽろ

○重点戦略課題3 北国らしいゆたかな暮らしの実現

【評価】 ★★★★★ A

施策の基本方針

冬の遊びやスポーツをはじめ市民が雪に親しみ、楽しむ機会を大切にしながら、一年を通して市民が快適に生活できる、北国らしい暮らしを創造するとともに、雪を貴重な資源という視点で見つめ直し、上手に活用する取り組みを進めます。

冬の暮らしを支える雪対策については、市民・企業・行政が連携しあいながら、地域特性に応じて効果的・効率的に進めます。

施策別の主な取組状況と成果

【施策1 北国らしい暮らしの創造】

北国である札幌特有の冬のライフスタイルや生活文化に関する情報発信、冬の屋外でのイベント実施などにより、市民が雪に親しみ、楽しむことへの関心を高めることができました。また、北方圏の都市との国際交流を通じて北国のまちづくりの知識や技術を共有することは、まちづくりのヒントを得る良い機会となっています。

【施策2 ウィンタースポーツの活性化】

ノルディックスキー世界選手権札幌大会や「ウィンタースポーツフェスタ in 大倉山」などのジャンプ台を間近で観たり体験するイベントの開催によって、ウィンタースポーツや冬の遊びへの関心を高めることができました。また、ウィンタースポーツに関する各種モデル事業では、今後のウィンタースポーツ振興に関する調査研究に資する市民の意識、動向に関する情報を得ることができました。

【施策3 多雪・寒冷な気候特性の積極的な活用】

雪の冷熱エネルギーの活用についての実証実験を行い、省エネルギー・CO₂削減効果を検証するなど、貴重な基礎データを得ることができました。また、大倉山ジャンプ競技場を観光資源として活用し、市民が冬を楽しむ機会の拡充や集客交流の促進を図りました。

【施策4 地域特性に応じた効果的・効率的な雪対策の推進】

歩行者砂箱を順次設置したことにより、冬期歩行環境の改善が図られました。また、冬期生活環境の充実を図るため、市民・企業・行政のそれぞれが役割分担し連携して進める生活道路の排雪制度の普及に努め、目標値を上回る実施件数となりました。その他、地域住民や企業と協働して福祉除雪の推進に努め、利用世帯が年々増加するとともに、利用世帯の満足度を高めることができました。

重点戦略課題における今後の展開（課題）

「北国らしいゆたかな暮らしの実現」のためには、市民が雪に親しみ、楽しむ機会を大切にすること意識の向上が必要であり、冬の遊びやスポーツに関する情報だけでなく、実際の活動事例の情報を提供することで、市民の関心を高める必要があります。

また、パートナーシップ排雪については、事業量の増加傾向から、財源の確保が必要であり、加えて排雪量の抑制や負担割合の見直しについて市民との議論が必要となっています。

各事業の実施にあたっては、効率的・効果的に行うために事業の実施方法や今後のあり方について検討することが必要です。

基本目標3 世界に誇れる環境の街さっぽろ

○重点戦略課題4 歩いて暮らせる快適で美しい街の創造

【評価】 ★★ C

施策の基本方針

歩行者や自転車利用に配慮して、公共交通機関を軸とした環境に負荷をかけない交通体系を確立するとともに、駅やターミナルなどがある交通の要所（交通結節点）をはじめとする地域の中心となる拠点に視点をいたまちづくりを、美しい都市景観に配慮しながら進めます。

「まちの顔」となる都心については、質の高い生活の場であり、まちの魅力を表現する場として、人と環境を重視した再生を進めます。

施策別の主な取組状況と成果

【施策1 環境に負荷をかけない公共交通の利用促進】

公共交通機関の音響案内やエレベーターの設置などによるバリアフリー化の推進、地下鉄専用1日乗車券「ドニチカキップ」、市電専用1日乗車券「どサンこパス」などの魅力ある料金サービスの提供の取り組みなどにより、地下鉄の乗車人員が平成16年度、17年度、18年度と続けて、前年比プラスとなりました。

【施策2 地域の中心となる拠点のまちづくり】

民間再開発事業への支援や交通結節点の整備、歩道のバリアフリー化などの施設整備が進んだほか、「まち本」の活用などによる市民への都市計画制度普及の取り組みや、景観などまちづくりに係るさまざまなルールづくりの取り組みなどが行われました。

【施策3 都心の再生】

都心の骨格軸である札幌駅前通地下歩行空間や創成川通アンダーパス連続化事業に合わせて、「緑を感じる都心の街並み形成計画」に基づく、うるおいとやすらぎのある都市空間の創造に向けた検討や札幌駅前通地下歩行空間の活用検討などにより、都市再生の取り組みが進みました。

重点戦略課題における今後の展開（課題）

行政としては、大規模プロジェクトの実施にあたっては工期短縮やコスト削減に努めるとともに完成後の施設活用のしくみづくりを行う、自転車対策においては駐輪場の確保を進めるなどの取り組みを行っています。しかし、例えば自転車対策においては、利用者のマナー向上が不可欠であるなど、いずれの施策においても、行政側の取り組みだけでは十分な成果を得ることはできないため、市民や一般企業との連携・協働が大切になっていることを踏まえた事業展開を行う必要があります。

基本目標4 芸術・文化、スポーツを発信する街さっぽろ

○重点戦略課題1 芸術・文化の薫る街の実現

【評価】 ★★★ B

施策の基本方針

音楽芸術の中核施設である札幌コンサートホール（キタラ）の教育活動をはじめ、国内外との交流や芸術・文化の振興を担う指導者や専門家の自由な創造活動などを通じて、世界都市さっぽろならではの優れた芸術・文化に親しめる環境を充実します。

さらに、市民が、まちのいたるところで多様な芸術・文化を楽しみながら実践し、表現・発信できる文化の薫るまちづくりを進めます。このため、誰もが気軽に参加できるさまざまな文化活動の振興に向けて、これらの活動に取り組んでいる市民やNPOの活動拠点などを支援します。

また、地域の優れた自然、文化、史跡などの文化遺産の保存と活用を推進するとともに、先住民族文化と交流し学ぶ機会をつくることで市民理解の促進を図ります。

施策別の主な取組状況と成果

【施策1 多様な芸術・文化に親しみ、交流・発信する環境づくり】

パシフィック・ミュージック・フェスティバルや札幌交響楽団に対する補助などを行うことで、市民がさまざまな文化活動に親しむことができる環境づくりを行うことができ、また、集客交流を促進する機会を創出することができました。

【施策2 市民が自ら作り上げる文化活動の振興】

音楽、演劇などの団体に対して小学校の教室を練習会場として提供する文化活動練習会場学校開放事業では、年2校ずつ開放校を増加し、また、演劇団体に対して活動拠点の賃借料の一部を補助する舞台芸術創作活動支援事業についても本格的に実施し、補助対象団体を6団体に拡大するなど、市民が行っているさまざまな文化活動を支援することができました。

【施策3 札幌の芸術・文化を担う人材の育成】

市内の小学6年生全員を対象としたオーケストラ演奏を鑑賞するキタラファーストコンサート事業や、子どものための舞台芸術のワークショップなどを実施する芸術体験キッズプロジェクト事業などを行い、次代を担う子どもたちが優れた音楽や舞台芸術に触れることにより、文化芸術への関心を高め、豊かな感性をはぐくむ機会を提供することができました。

【施策4 文化遺産の保存・活用と伝統文化、先住民族文化の継承】

市内ではじめて発見された世界最古のサッポロカイギュウ化石については発掘調査の上、その成果を市民に提供することができました。また、旧永山武四郎邸などの文化財を保存修理し、集客交流資源として再活用することにより、市民の歴史に対する関心や、伝統文化の保存・継承の機運を高めることができました。

重点戦略課題における今後の展開（課題）

人的・物的資源が限られている中で、文化芸術を身近に感じ、気軽に楽しむことができる環境をつくるためには、各事業者が自立し、効率的な事業運営と事業自体の魅力アップを図るとともに、効果的なPR手法や、寄附などについて市民・企業・行政が連携して事業を支えていく機運を醸成する必要があります。

また、文化芸術振興の施策を総合的、計画的に推進していくための基本的な計画について、今後の時代の動向を見極めながら、随時見直していく必要があります。

基本目標4 芸術・文化、スポーツを発信する街さっぽろ

○重点戦略課題2 スポーツの魅力あふれる街の実現

【評価】 ★★ C

施策の基本方針

市民の誰もが身近でスポーツを楽しめる環境づくりを進めるとともに、地域住民が主体となった地域スポーツクラブを育成するしくみを検討します。また、市民と協働で総合的なスポーツ情報を提供するとともに、人材確保のしくみづくりや自然に親しむスポーツ活動の実践を進めていきます。

さらに、スポーツにおけるさっぽろブランドを高めるため、札幌ならではの冬のスポーツの新たな楽しみ方を発信するとともに、地域に根ざしたプロスポーツを市民と共に育てます。

施策別の主な取組状況と成果

【施策1 身近でスポーツを楽しむ環境づくり】

学校開放校数の拡大や、北・東の両区体育館の改修と厚別温水プールの移転改築などに取り組み、ハード面における市民のスポーツ環境の整備を進めることができました。

【施策2 スポーツ情報の提供や人材確保のしくみづくり】

総合型地域スポーツクラブである「Sports Club Sapporo」^{スポーツ クラブ サッポロ}でのモデル事業の展開を通じ、地域スポーツクラブの育成・支援のあり方について検討を進めました。

【施策3 トップスポーツの積極的活用】

トップアスリート活用事業を実施し、オリンピック選手やプロ選手など、各競技のトップアスリートによる子ども向けのスポーツ教室やトークショーなどの事業を展開することで、市民がトップレベルのスポーツに親しむ機会を拡大することができました。

【施策4 ウィンタースポーツの活性化（再掲）】

ノルディックスキー世界選手権の開催に取り組み、大会を成功させることができました。また、中学校のスキー授業支援事業など、子どもたちがウィンタースポーツに親しむための取り組みを進め、中学校のスキー授業の減少傾向に歯止めをかけることができているなど、ウィンタースポーツ活性化に一定の成果をあげることができました。

【施策5 健康づくり運動とスポーツ振興の連携】

モデル事業としてスタートした「さっぽろスポーツキャラバン隊事業」の本格展開に着手し、ソフト面における、市民のスポーツ環境の整備とスポーツを通じた健康づくり活動への足がかりを作ることができました。

重点戦略課題における今後の展開（課題）

「スポーツの魅力あふれる街の実現」のためには、市民が、「する」「観る」「支える」といったさまざまなスポーツへの関わりを持つことが望ましいことから、今後も、「する」「支える」といった部分の強化につながる取り組みを積極的に進めていく必要があり、「さっぽろスポーツキャラバン隊」などの身近にスポーツを体験できる事業の推進や、ノルディックスキー世界選手権札幌大会の成果を活用したウィンタースポーツ振興などに取り組んでいく必要があります。

基本目標5 ゆたかな心と創造性あふれる人を育む街さっぽろ

○重点戦略課題1 自立した市民に育てる教育の推進

【評価】 ★★★ B

施策の基本方針

学校、家庭、地域などが、それぞれの役割を果たすとともに連携を一層充実し、思いやりとゆたかな心をはぐくむ環境づくりと学びの意欲を育てる教育を推進することで、子どもたちの生きる力を伸ばし自立した市民に育成します。

また、人間尊重、国際理解、環境問題、情報化などの今日的な課題に対応する教育を推進します。

施策別の主な取組状況と成果

【施策1 思いやりとゆたかな心をはぐくむ環境づくり】

不登校対策について、中学・高校へのスクールカウンセラーの配置や、フリースクールなどの民間施設との連携を図ることにより、不登校児童生徒への支援をより一層推進しました。

林間学校、大志塾事業、Kitaraファーストコンサートなどの事業を通じて、子どもたちの自主性、創造性、協調性や、ゆたかな感性をはぐくむことができました。

【施策2 学びの意欲を育てる教育の推進】

障がいのある児童生徒が、可能な限り地域の学校で学ぶことができるよう、特別支援学級の整備拡充を図ったほか、整備内容の見直しを行い、目標値を上回る学級数を開設することができました。

札幌市教育推進計画などに基づき、さまざまな実践的研究に各学校が取り組んだり、地域人材の活用を進めたりしたことにより、子どもたちの興味・関心を高めるような授業を展開することができました。

重点戦略課題における今後の展開（課題）

不登校対策の推進については、スクールカウンセラーを小学校全校に派遣する体制を整えるなど、より効果的な取り組みを継続して実施していきます。また、子どもの権利条例については、今後、子どもの権利の概念、条例の意義などについて、より多くの市民に理解いただく必要があります。さらに、権利侵害から子どもを救済するための制度の検討に当たっては、実効性ある制度とするための工夫を行っていきます。

これらを踏まえ、市民ニーズや社会情勢の変化も加味し、それぞれの施策や事業について、必要な改善を図ったうえで、自立した市民に育てるための教育を推進していきます。

基本目標5 ゆたかな心と創造性あふれる人を育む街さっぽろ

○重点戦略課題2 さっぽろを支え発信する人づくり

【評価】 ★★★ B

施策の基本方針

子どもから高齢者まで、市民の誰もがさまざまな学習に取り組みその成果を地域の活動などに発揮できる環境をつくっていくとともに、国際的視野を持ちながら地域への貢献を果たす（仮称）札幌市立大学の設置や高等教育機関との連携強化に向けての取り組みを進め、これからの社会を担う人材を育成します。

施策別の主な取組状況と成果

【施策1 多様な学習機会の提供とその成果を発揮できる環境づくり】

札幌市の生涯学習推進の基本的な考え方と方向性を示す「第2次札幌市生涯学習推進構想」を、有識者や公募市民からなる生涯学習推進検討会議の協議内容を踏まえながら進め、平成19年3月に策定しました。

生涯学習に関連する事業において、地域やボランティア、NPOなどとの連携により、学習機会の充実を図る取り組みが進みました。

【施策2 （仮称）札幌市立大学の設置と高等教育機関との連携強化】

市立大学の設置事業に取り組み、計画どおり平成18年4月1日に、デザイン学部と看護学部からなる札幌市立大学を開学しました。

また、新たな生涯学習推進構想の策定過程においてアンケートなどを実施し、大学等高等教育機関の現状と、連携にあたっての課題について把握しました。

重点戦略課題における今後の展開（課題）

第2次札幌市生涯学習推進構想の実現に向け、関連事業の整理を行い、それらを着実に実施していく必要があります。いわゆるフリーターやニートの増加、高齢化の急速な進展、家庭や地域の教育力の低下などが指摘されるなか、関係する機関・団体とも連携を図りながら、今後より一層、市民一人ひとりの学習・活動を促進するための取り組みを進め、その成果を地域づくりなどに活かしていくことが求められています。

また、札幌市立大学をはじめとする大学等高等教育機関などとの連携によるリカレント教育の推進に取り組み、これからの札幌を支える人材の育成に努めることが重要です。

Ⅲ 成果指標の状況

重点戦略課題	No	指標項目	現状値	実績値	傾向	目標値
1 元気な経済が生まれ、安心して働ける街さっぽろ						
1-1 中小企業や創業に挑戦する市民へのきめ細やかな支援	1	事業所増加率(年平均)	▲1.3% (8-13年)	▲0.9% (13-18年)		±0% (13-18年)
	2	中小企業向け融資制度の新規融資件数	7,159件 (14年度)	11,632件 (18年度)	 到達	11,000件 (18年度)
	3	中小企業向け融資制度の新規融資額	638億円 (14年度)	3,222億円 (16-18年度)	 到達	2,414億円 (16-18年度)
	4	中小企業支援事業利用実績	3,584件 (14年度)	6,881件 (18年度)	 到達	5,000件 (18年度)
1-2 安心して働ける環境づくり	5	札幌圏の有効求人倍率	0.38倍 (14年度)	0.51倍 (18年度)		0.54倍 (18年度)
	6	札幌圏の就職者数(月平均)	5,185人 (14年度)	4,353人 (18年度)		6,500人 (18年度)
1-3 協働による観光振興とコンベンション事業の推進	7	年間来客数	1,325万人 (14年度)	1,410万人 (18年度)		1,500万人 (18年度)
	8	来客の満足度	84.5% (14年度)	84.7% (18年度)		90% (18年度)
	9	ボランティア体験参加者数(延べ人数)	3,609人 (14年度)	10,104人 (18年度)	 到達	10,000人 (18年度)
	10	コンベンション誘致件数	608件 (15年度)	911件 (18年度)		1,000件 (18年度)
1-4 さっぽろの知恵を活かした特色ある産業の振興	11	情報関連産業事業所数 ※	282 (14年度)	250 (18年度)		314 (18年度)
	12	情報関連産業売上高 ※	2,443億円 (14年度)	3,382億円 (18年度)		3,027億円 (18年度)
1-5 アジアを中心とした産業ネットワークの拡大	13	アジア地域への輸出額(札幌税関所管分)	17億円 (14年)	26億円 (18年)		35億円 (18年)
	14	来札外国人宿泊者数(延べ宿泊者数)	232,072人 (14年度)	559,272人 (18年度)	 到達	400,000人 (18年度)

※出展：「北海道ITレポート」（ただし、14年度は北海道経済産業局調査、18年度は社団法人北海道IT推進協会調査。）

重点戦略課題	No	指標項目	現状値	実績値	傾向	目標値
2 健やかに暮らせる共生の街さっぽろ						
2-1 魅力あふれる 地域づくりの 推進	15	町内会、NPO、ボランティアなど市民活動に参加経験のある人の割合	36% (11年度)	41.1% (18年度)		50% (18年度)
	16	NPO認証法人数(札幌市に主たる事務所を置くもの)	193 (14年度)	569 (18年度)	 到達	400 (18年度)
2-2 少子化対策の 推進	17	子育てしやすいまちだと思ふ人の割合	63.2% (11年度)	43.3% (18年度)		70% (18年度)
	18	子育て家庭の交流の場が開催されている地域の割合(小学校区単位で見た割合)	58% (15年度)	86% (18年度)	 到達	80% (18年度)
	19	保育所待機児童数	184人 (15年度)	212人 (19年度)		0人 (19年度)
	20	子育てボランティア登録者数	1,160人 (14年度)	2,268 (18年度)	 到達	2,000人 (18年度)
2-3 地域での高齢 者・障がい者 の自立支援の 促進	21	札幌市社会福祉協議会ボランティア登録者数	28,942人 (14年度)	30,849人 (18年度)		33,800人 (18年度)
	22	介護サービスを受けながら、在宅で生涯を全うできた人の割合	8.5% (14年度)	12.5% (18年度)		18% (18年度)
	23	障がいのある人に対する市民の理解が深まっていると感じる障がいのある人の割合(身体障がいのある人)	39.2% (13年度)	23.7% (17年度)		50% (18年度)
		障がいのある人に対する市民の理解が深まっていると感じる障がいのある人の割合(知的障がいのある人)	23.8% (13年度)	15.1% (17年度)		40% (18年度)
		障がいのある人に対する市民の理解が深まっていると感じる障がいのある人の割合(精神障がいのある人)	37% (13年度)	26.2% (17年度)		50% (18年度)
	24	週に2日以上外出する高齢者、身体障がいのある人の割合(高齢者)	73.6% (13年度)	78.2% (18年度)		80% (18年度)
		週に2日以上外出する高齢者、身体障がいのある人の割合(身体障がいのある人)	69.2% (13年度)	62.0% (17年度)		80% (18年度)
2-4 地域での健康 づくりの推進	25	意識的に運動している人の割合(15歳以上)(男性)	48.2% (12年度)	50.5% (18年度)		58% (18年度)
		意識的に運動している人の割合(15歳以上)(女性)	42.3% (12年度)	48.8% (18年度)		52% (18年度)
	26	すこやか健診受診率	42.2% (14年度)	51.4% (18年度)	 到達	50% (18年度)
	27	健康づくりに取り組む自主活動グループ数	60 (14年度)	215 (18年度)		300 (18年度)
	28	健康づくり応援企業・店舗数	438 (14年度)	1,227 (18年度)	 到達	1,000 (18年度)

重点戦略課題	No	指標項目	現状値	実績値	傾向	目標値
3 世界に誇れる環境の街さっぽろ						
3-1 水とみどりの うるおいと安 らぎのある街 の実現	29	河川（環境基準点）の水質目標値の達成率	80% （14年度）	100% （18年度）	 到達	100% （18年度）
	30	多自然型河川の整備延長	8.2km （14年度）	11.2km （18年度）	 到達	11km （18年度）
	31	札幌が好きな理由として「緑が多く自然が豊かだから」を挙げた人の割合	33.2% （14年度）	33.3% （18年度）		40% （18年度）
	32	市民との協働による植樹本数	8,537本 （14年度）	51,035本 （18年度）	 到達	11,000本 （18年度）
3-2 地球環境問題 への対応と循 環型社会の構 築	33	市民の省エネ・省資源行動指標（省エネ・省資源を実践している市民登録者数）	－ （14年度）	127千人 （18年度）	 到達	10万人 （18年度）
	34	廃棄ごみ量（平成10年度対比）	1%削減 （14年度）	11%削減 （18年度）	 到達	10%削減 （18年度）
	35	環境関連施設（環境プラザ、リサイクルプラザ、豊平川さけ科学館、円山動物園など11施設）利用者数	130万人 （14年度）	124万人 （18年度）		140万人 （18年度）
	36	環境マネジメントシステム等導入事業所数	75件 （14年度）	776件 （18年度）	 到達	300件 （18年度）
3-3 北国らしいゆ たかな暮らし の実現	37	冬期間来客数（11～3月の観光客数）	431万人 （14年度）	485万人 （18年度）		490万人 （18年度）
	38	ウインタースポーツ（冬季ジャンプ大会）の観客数	5.3万人 （14年度）	5.1万人 （18年度）		6万人 （18年度）
	39	市民の協力による歩道への滑り止め材の散布	36% （14年度）	39% （18年度）		50% （18年度）
	40	市民とのパートナーシップによる除排雪	1,026件 （14年度）	955件 （18年度）		1,100件 （18年度）
3-4 歩いて暮らせ る快適で美し い街の創造	41	歩道のバリアフリー化の状況	5% （14年度）	71% （18年度）		80% （18年度）
	42	駅（75駅）のバリアフリー化の状況	59% （14年度）	70% （18年度）	 到達	70% （18年度）
	43	「街に活気がある」と感じる人の割合	6.8% （14年度）	8.3% （18年度）		10% （18年度）
	44	都心部の歩行者空間の屋外広告・看板の数	212個 （14年度）	175個 （18年度）		150個 （18年度）

重点戦略課題	No	指標項目	現状値	実績値	傾向	目標値
4 芸術・文化、スポーツを発信する街さっぽろ						
4-1 芸術・文化の薫る街の実現	45	主要芸術・文化施設(札幌芸術の森、札幌コンサートホール(キタラ)、教育文化会館、札幌市民ギャラリー、写真ライブラリー、主要文化財施設)の利用者数	163万人 (13年度)	178万人 (18年度)		190万人 (18年度)
	46	学習・研究の種類別行動者率(芸術・文化)	8.7% (13年度)	11.1% (18年度)	 到達	9.5% (18年度)
	47	趣味・娯楽の種類別行動者率(演芸・演劇・舞踊鑑賞)	12.5% (13年度)	11.2% (18年度)		16.4% (18年度)
4-2 スポーツの魅力あふれる街の実現	48	週に1回以上スポーツする人の割合(成人)	30.7% (15年度)	30.5% (18年度)		40% (18年度)
	49	直接スポーツ観戦をする人の割合	41.8% (15年度)	46.8% (18年度)		50% (18年度)
	50	スポーツボランティアの経験がある人の割合	9.1% (15年度)	9.1% (18年度)		20% (18年度)
5 ゆたかな心と創造性あふれる人を育む街さっぽろ						
5-1 自立した市民に育てる教育の推進	51	不登校児童生徒数(小学校)	286人 (14年度)	249人 (18年度)		30%程度減 (18年度)
		不登校児童生徒数(中学校)	1,239人 (14年度)	1,306人 (18年度)		20%程度減 (18年度)
	52	地域への授業公開校の割合(小・中学校)	51% (14年度)	75.1% (18年度)		80% (18年度)
	53	小・中学校における地域人材の活用人数	7,649人 (14年度)	10,259人 (18年度)	 到達	10,000人 (18年度)
	54	電車やバスの中で席を譲った経験がよくある、たまにある子どもの割合	53.6% (14年度)	54.7% (17年度)		70% (18年度)
	55	学習の中で不思議だと思ってもそのままにする子どもの割合	14.9% (14年度)	13.1% (17年度)		5ポイント減 (18年度)
5-2 さっぽろを支え、発信する人づくり	56	学習・活動(趣味・スポーツを含む)をしている人の割合(成人)	65% (12年度)	56% (17年度)		75% (18年度)
	57	学習成果を活用したい人の割合(成人)	58% (12年度)	82% (17年度)	 到達	70% (18年度)
	58	学習環境に満足している人の割合(成人)	53.3% (12年度)	66% (17年度)	 到達	65% (18年度)
	59	さっぽろ市民カレッジ受講者数	2,400人 (14年度)	3,520人 (18年度)	 到達	3,000人 (18年度)
	60	生涯学習を支えるボランティア数	4,000人 (14年度)	4,424人 (18年度)		4,500人 (18年度)

IV 主な施設、サービス水準の状況

設備（サービス）名	計画事業量 (16～18年度)	整備水準			備 考
		15年度末	18年度末	18年度末目標	
地区センター	新設 1館	22館	23館	23館	はちけん地区センター 24館目に着手(里塚・美 しが丘地区センター)
乳幼児医療費助成	対象年齢拡大	通院：4歳未満 入院：6歳未満	通院・入院とも 就学前まで	通院・入院とも 就学前まで	
児童会館	新設 1館	103館	104館	104館	屯田北児童会館
ミニ児童会館	新設 14館	22館	40館	36館	
認可保育所	新設 6カ所 改築 13カ所 認可移行10カ所	175カ所 (15,195人)	187カ所 (16,730人)	189カ所 (16,725人)	篠路小学校区、苗穂小学 校区ほかに新設 整備翌年度の定員数を 示す
延長保育事業	新規 36カ所	120カ所	146カ所	156カ所	
一時保育事業	新規 30カ所	42カ所	63カ所	72カ所	
乳幼児健康支援 デイサービス事業	新設 1カ所	3カ所	4カ所	4カ所	
全身性重度障がい者 介護利用時間	10時間引上げ	14時間/日	24時間/日	24時間/日	
重症心身障害児（者） 通園事業	新設 2カ所	4カ所	6カ所	6カ所	中央区、東区に新設 定員数 30人⇒40人
特別養護老人ホーム	新設 6カ所	39カ所	45カ所	45カ所	北区、厚別区、豊平区、 西区(2カ所)に新設 定員数 3,359人⇒3,829人
老人保健施設	新設 5カ所	35カ所	40カ所	40カ所	北区(2カ所)、南区、 豊平区に新設 定員数 3,296人⇒3,749人
ケアハウス	新設 1カ所	15カ所	16カ所	16カ所	定員数 950人⇒1,000人
高齢者優良賃貸住宅	着工ベース 150戸	28戸	147戸	160戸	整備水準は管理ベース

設備（サービス）名	計画事業量 (16～18年度)	整備水準			備 考
		15年度末	18年度末	18年度末目標	
知的障害者通所 授産施設	新設 3カ所	11カ所	14カ所	14カ所	清田区、西区、手稲区に 新設 定員数514人⇒650人
知的障害者通所 更生施設	新設 1カ所	8カ所	9カ所	9カ所	手稲区に新設
身体障害者療護施設	新設 1カ所	7カ所	8カ所	8カ所	白石区に新設
障がい児の外出時 移動介護	対象年齢拡大	15歳以上 18歳未満	0歳以上 18歳未満	0歳以上 18歳未満	
緑地保全地区	指定 1地区	23地区	23地区	24地区	
地下鉄駅エレベーター 設置	新設 4駅	37駅	43駅	41駅	すすきの、平岸、円山公園、 南郷18丁目駅に新設 片側ホームのみの設置 駅は整備駅として計上 せず
文化活動練習会場 学校開放校	新規開放6校	10校	16校	16校	清田小、手稲鉄北小ほか を新規開放
体育館開放校	新規開放11校	283校	287校	291校	資生館小、上篠路中、篠 路西中、平岡中ほかを新 規開放 16年度の廃校に伴い3 校廃止
スクールカウンセラー 配置	新規配置65校	41校	106校	106校	全中学校・高等学校に 配置
小学校	新築 1校 改築 3校	206校	207校	207校	整備翌年度の学校数を 示す(分校を除く) 新築:屯田北 改築:手稲東、円山、信濃
中学校	新築 1校 改築 1校	97校	98校	98校	同上 新築:屯田北 改築:伏見
特殊学級	整備 27学級	228学級	315学級	255学級	整備翌年度の開設見込 みを示す 整備水準は開設実学級数
学校図書館開放校	新規開放9校	78校	87校	87校	新琴似小、明園小、琴似 小ほかを新規開放
外国語指導助手	新規招致14人	29人	43人	43人	中学校・高等学校に配置

注：備考欄中の「○⇒○」は、15年度末と18年度末の整備水準の実績値を示している。